

## 『神の罪赦し・救い・愛・イエスの十字架』

聖書の本文:ヨハネ手紙第一4章7節—12節・暗唱聖句:エペソ人への手紙1章7節

説教者:鄭南哲牧師

(Rev.Jung nam-chul)



シャーロム！愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！一週間も主の平安で過ごされましたか。主イエスキリストにあってみなさんの心も、体も、生活の営みが守られましたか。

## ＜1. イエスキリストの受難と十字架＞

今週から我々は2016年主イエスキリストの受難週間を我々は共に過ごす事になります。実は新約聖書を読んで見ますと、特に福音書と言われるマタイ、マルコ、ルカ、ヨハネの福音書ではイエスキリストの生涯の中で十字架につけられるまでの最後の一週間の出来事を集中的に記録して下さっています。これを量的に比較して見ると、マタイとルカの福音書が1/4を、マルコの福音書では1/3を、ヨハネの福音書では1/2をイエス様の最後の一週間に起こった事を書かれているという事で見ますと、神の御子であるイエスキリストが何のために、何のコールを持っておられこの地に人間の姿を持って来られたのかがよく分かって来ます。つまり、十字架につけられるためではないでしょうか。

我々がイエスキリストを正しく信じ、正しく知るためにはイエスキリストの受難と十字架の意味を正しく知り、信じなければなりません。我らの救い主イエスキリストご自身のあやまちや罪があったためなく、神の前で罪人たちである我々の罪の御代わりになり、我々のすべての罪を背負い、罪の代価を支払って下さったからです。ですからイエスキリストのこの苦難と十字架は今日私たち一人一人と関係がある出来事であります。イエスキリストがお生まれになる前の約700年前の旧約の預言者だったイザヤを通して来られるメシヤイエスキリストについてこう預言されていました。イザヤ書53章5節には“しかし、彼は私たちのそむきの罪のために刺し通され、私たちの咎のために砕(くだ)かれた。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、彼の打ち傷によって、私たちは癒された。”

イエスキリストには一番残酷な処刑にされる何の理由はありませんでした。それにもかかわらず、ユダヤ人たちはイエスキリストをきらって殺すようにとローマの総督であってピラトに引き渡し、ローマ総督は彼らの話だけを聞き入れて、イエスが無罪であることを知っていながらも彼らの反発をしづませるつもりで、卑怯に十字架の処刑にイエスキリストを引き渡してしまいます。表だけでみると、イエスはユダヤ人たちの度を過ぎた民族主義の感情の犠牲として処刑されているように見えます。ユダヤ人たちはたしかにローマからの独立を願いながらも、イエスにはローマへの反逆を企(くわだ)てたという罪名をつけました。ローマにとってイエスは全然危険な人ではありませんでした。しかし、ユダヤ人たちの指導者たちであった、パリサイ人、長老、大祭司たち、そして群集があまりにもイエスの死刑を願っていたため、彼を処刑せざるを得ませんでした。

イエスキリストが十字架で処刑された場所は‘ゴルゴタ’という丘(おか)でした。この意味は‘どくろ’ですが、おそらくこの低い山自体がどくろのように見えていたので、つけられた名前ではないかと推測されています。ラテン語では“カルバリ”といいますが、同じく“どくろ”という意味です。イエス様は十字架を背負って処刑される場所に移動されました。ほかの福音書ではイエスが最後まで十字架を背負うことのできなかつたので、クレネというなかからきたシモンという人がいてむりやりにイエスの十字架を背負わされたと記録されています。十字架を背負う前すでにあまりにもむち打たれていたため、体が血まみれになっていたため、イエスはこの十字架を最後まで背負うことができなかったのです。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの家族のみなさん！みなさんがご存知のようにイエスさまの十字架は決して美しい抽象的概念とは異なります！イエス様は神さまだったから、まあ、耐えられたのだでしょうと思っている方がいるかもしれませんが。十字架はローマとイスラエルの死刑の中で一番残酷な死刑方であって、イエス様にとってこの十字架の杯を取り除きたいほど耐えられないほどの苦しみでした。みなさん！想像してみてください！イエス様が打たれた鞭(むち)には動物の骨となまり(鉛)のかたまりが各3つずつ差し込まれていて、一回打たれると肉のあちこちが引き裂かれついには骨が見られるほど、全お体が血だらけになりました。頭には指よりも長いとげの冠が刺し込まれ流された血のためお顔が真っ赤になったのではないのでしょうか。

手のひらに釘を指すと、後になって肉が破れてしまいますから手首にさします。手首の2つの骨の間には大きい神経があるので、十字架からその身が落ちない、ということです。十字架から身が落ちかかると苦しくて身を引きあげます。そうすればするほど、かんなをあまりかけなかった木に背中が当たって、後ろも血だらけになって、まるで十字架の上で血まみれのイエスキリストの

姿を想像して見ると、どれだけむごたらしい光景でしょうか。ある歴史的文献によるとイエス様が十字架に架けられたとき裸だったと伝えられています。まるで血まみれの肉の塊(かたまり)が木の上でうごめくいるようで、目を開けて見るにはとても忍べない光景だったそうです。肉体的苦しみだけではなく霊的にも人類の罪を 背負い、そのうえ、お父様との関係まで断ち切られるくるしみをも受けられました(マタイの福音書27:46)。なぜ神の御子イエス・キリストがあんな残酷な十字架につけられなければならなかったのでしょうか。

## <2. 神の唯一罪赦しと救いの道: イエスキリストの十字架>

マタイの福音書26章26節—30節を見ると、イエスキリストが十字架を背負われる前日最後の弟子たちと一緒に過ごし、最後の晩餐をされる場面が書かれているでしょう。その時、イエス様は私たちのために過ぎ越しの祭りの子羊としてご自分の肉と血を捧げるといわれました。イエス様はパンをさいて弟子たちに与えながらご自分の体を、そして杯を回しながらご自分の血だと言われました。そして、これは罪を赦すために、多くの人のために流される契約の血だと言われました。

イエスキリストは我々の罪を赦すために十字架につけられ、死なれる事をすでにご存知で、それを教えて下さった大切な内容であります。実はこれが全体の聖書の福音の核心なのです。

聖書によると、“罪からの結果は死”でした(ローマ人への手紙6章23節)。“義人はいない。一人もない。(ローマ人への手紙3章10節)、“すべての人は罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができず(ローマ人への手紙3章23節)”

詩篇51篇5節でダビデ王は“私は咎める者として生まれ、罪ある者として母は私をみごもりました。”と告白しています。ダビデは母の胎内にいた時から罪人だった事を認め告白しています。どういう意味ですか。人は全てお母さんの胎内から罪人だったという意味です。つまり罪を犯したので罪人になるのではなく、罪人だから罪を犯すということなのです。

マルコの福音書7章21節から23節にイエスキリストは人間の罪深さについてこのようにおっしゃっています。“内側から、すなわち、人の心から出てくるものは、悪い考え、不品行、盗み、殺人、姦淫、貪欲(どんよく)、よこしま、欺き、好色(こうしょく)、ねたみ、そしり、高ぶり、愚かさであり、これらの悪はみな、内側から出て、人を汚すのです。”

使徒パウロは罪に対して人間の弱さと限界性を深く感じながら、自分にある罪深さについてこのように告白してあります。

“私は、自分でしたいと思う善を行わないで、かえってしたくない悪を行っています。もし私が自分でしたくないことをしているのであれば、それを行っているのは、もはや私ではなくて、私のうちに住む罪です。”(ローマ人への手紙7章19、20節)。

罪人である我々は何でも自分のものにしたくて盗んだり、貪欲します。自分が一番大切にしたいからねたみをもったり、嘘ついたり、憎みます。自分だけ楽をしたい、自分が一番の違いを見せたくて乱暴(らんぼう)したり、高ぶり、不平、悪口もだす傾向があります。歳をとればとるほど罪から離れるよりかえて罪にもっと自然になれてしまう自分を見ることができるよう。

世界的に有名なクリスチャン作家であるC.S.ルイスという方は罪についてつぎのように定義しました。“罪は人間が神様に、私の好きなことで生きるようにほっといてください。”と主張することだし地獄は神様がその人間に対して“わかった。そしたらそこで、あなたの好きなように事何でもやって見て!”と永遠に放置(ほうち)しておく所だと言いました。

今日人間の行動だけではなく心の奥からの神を背いて、無視、無関心、拒絶しながら高ぶり、勝手さ、偽善、淫(みだ)らさ、その狡猾(こうかつ)さ、その残忍(ざんにん)さなど今は人間の罪がどこまで至るのかわかりません。だれも人の人の力で罪の鎖から解放される事も、自由になれる事も、赦される事も出来ません。神様の目ですべての人間は彼らの罪の結果によって裁きと永遠の滅びをうけて当然です。イエスキリストが処刑される前まではすべての人間が神様の裁きの対象でした。最後の一人まで神様の処刑の対象でした。この世には数十万、数億の死の十字架がかかげなければなりませんでした。

しかし、神様は愛するひとり子にすべての罪を全部負わせ、人間にあたるべきいかりのさばきを受けさせました。ひとりの神様であられるイエスキリストは代表として我々罪人のためのかわりに犠牲のいけにえとなってくださったことにより、神様と和解させ、神の恵みを受ける救いの道が開かれたということを神様はわざとイエスキリストの受難と十字架の死の全ての過程公に見せながら、すべて公開しておられたのです。

愛するクリスチャンレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！なぜ我々が十字架のイエスキリストを信じ、罪を認め、告白することによって罪が赦され、救われるのでしょうか。どうしてそれが可能になったのですか。聖書ははっきりと続けて強調しながら、イエスキリストご自身がこんな罪人たちである我々の罪を赦し、癒し、回復させ、救うために十字架につけられ、我々の全ての罪の

代価を完全に支払い済み、完了させて下さったからだと言証して下さい。“主イエスは、私たちの罪のために死に渡され、私たちが義と認められるために、よみがえられたからです。”(ローマ人への手紙4章25節)

“肉によって無力になったため、律法にはできなくなっていることを、神はしてくださいました。神はご自分の御子を、罪のために、罪深い肉と同じような形でお遣わしになり、肉において罪を処罰(しょばつ)されたのです。”(ローマ人への手紙8章3節)

イザヤ書53章5節には明確にこうかいてあります。“しかし、彼は私たちのそむきの罪のために刺し通され、私たちの咎のために砕(くだ)かれた。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、彼の打ち傷によって、私たちは癒された。”

エペソ人への手紙1章7節では“私たちはこの御子のうちにあつて、御子の血による贖い、すなわち罪のゆるしを受けているのです。これは神の豊かな恵みによることです。”“この方以外にはだれによっても救いはありません。天の下でこの御名のほかに、私たちが救われるべき名は人に与えられていないからです。(使徒の働き4章12節)”

正義の神様に不可能なことが一つあります。それは罪でした。我々が反逆し、罪を犯すことだけは正義の神様ですので、罪に対して罪と言うべきであり、その罪の代価を問われるのは当然だと思います。しかし、同時に愛の神様は、罪の中で永遠に滅ぼされるべき人類を愛し、イエスキリストをとおして我々の罪を解決させる方法を定めたのです。それが、まさにイエスキリストの十字架の上での贖いの死でした。イエスキリストが十字架に高くかかげられたのはもはや我々に神の御怒りはくだらないという宣言です。高くかかげられたイエスを通して、神様は我々にこう語ります。“わたしはこれ以上あなたたちに怒りをくたさない。この一回の処刑によってあなたを救うことができました。” イエスキリストの十字架にはこの神様の愛と罪赦しと救いのメッセージが含まれているのです。なぜなら、イエスの十字架の罪赦しと救いを信じる者に対して神様の裁きはもはや永遠に完全に終わったからです。

ですから、昔も、今も、これからの全ての罪人である人々たちにだれでも関係なく、この十字架のイエスキリストが私の罪をも赦すために十字架に付けられた事を心から受け入れ信じれば、自分の全ての罪をも赦され、救われる道が開かれているのではないのでしょうか。

神の前でただ自分の罪を気づかないか、まったくないかのようになつてしまっているわけだと聖書は指摘して下さい。そしてだれでもその十字架のイエスキリストを受け入れ、その救い主に罪を認め、言い表す事により、罪赦され、救われる事を約束して下さい。第一ヨハネの手紙1章7節後半～10節に、“私たちは互いに交わりを保ち、御子イエスの血はすべての罪から私たちがをきよめます。8 もし、罪はないと言うなら、私たちは自分を欺いており、真理は私たちのうちにありません。9 もし、私たちが自分の罪を言い表わすなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちがをきよめてくださいます。10 もし、罪を犯してはいないと言うなら、私たちは神を偽り者とするのです。神のみことばは私たちのうちにありません。”

ところが、愛するみなさん、イエスキリストの十字架の贖いの御業により、人類の全ての人々に罪が赦され、救われる道が与えられたのにも関わらず、サタンは昔も今も私たちに絶えず主の十字架は何の効力もなく、罪責感に苦しませ感じさせています。たえず過去の罪に縛られ、問題をあげます。“きみ、本当にすべてが赦されたと思うの。本当に、一生涯その罪からははなれませんかよ!”、“きみのような偽善者が教会に行き事なんで神様を信じることなんでそれはおかしいんじゃないの、君にそんな資格があると思うの”、“神はね、君のような人を絶対許せないと思う。そう思わない! あんたのような人が教会で奉仕をするな”、とかですね。私たちの一番弱い部分に誘惑し、暴(あば)きだします。でもその時こそ、もっと強くイエス様を信じる者にはもうイエスキリストのその血しおによって私の罪は許され、きよめられた信仰と確信に頼ります。罪の解決と赦しは私たちの努力によって得たものではないから大丈夫です。もうすでにイエスキリストがなさってくださいただから我々がどうするかによって変わることはまったくありません。ただイエスキリストを信じることで十分なのです(ヨハネの福音書3章16節)。イエス様はもうそれを十字架の上で宣言してくださいました。“すべてのことが完了した(ヨハネ19:28, 30)。”と宣言しました。罪の問題、その許しのすべてのことを成し遂げてくださったことを忘れないでください。この意味は人類の救いのためすべてを成し遂げた! だから救われるためほかにいらぬし、ありません! という神の宣布でした。イエス様の十字架による罪の赦しと救いの恵みが現在、今も十字架のイエス様を信じる者たちにも通用されるという意味なのです。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん!もう一度イエスがかかげられた十字架を見上げて見ましょう。そして自分の罪に対してこれ以上悩まないで、恐れなくてください。もうイエスキリストに明け渡してください。主の十字架の前におろしてください。イエスキリストの御前で癒されない苦しみはありません。もう赦されない罪もありません。この世で一番難しい問題は どうやって自分の罪の問題が解決され救われるのかのことでした。しかし、イエスキリストが十字架につけられた以上、我々に解決されない難題はないことを信じてください。イエス様は“極めてひどい苦しみの十字架のあがないのみわざ”を通して十字架のイエス

様を受け入れる者たちには誰もが救われる恵みを与えてくださいました(ヨハネの福音書3章16節:神は実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちをもつためである。アーメン!)自分の罪が赦され、救われるためには学歴もお金も見た目も家門も過去がどうであれイエスキリストの御前では関係ありません。神が我々を救うために備えて下さった十字架のイエス様の罪赦しの心から受け入れる者はみな、赦され、救われるのです。これがまさにキリスト教の一番核心的な教えであり、イエスキリストが十字架にかかれた理由であります。ペテロの手紙第一2章22、24節を読んでいただきますか。“キリストは罪を犯したことがなく、その口に何の偽りも見いだされませんでした。そして自分から十字架の上で、私たちの罪をその身に負われました。それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるためです。キリストの打ち傷のゆえに、あなたがたは、いやされたのです。”“主イエスは、私たちの罪のために死に渡され、私たちが義と認められるために、よみがえられたからです。”

### <3. 神の最高の愛:イエスキリストの十字架>

愛する信仰の家族の皆さん! イエスキリストの十字架は決して偶然ではありません。神様はわざわざご自分の犠牲を計画されました。そして自分の十字架になる木を植えさせました。そして自分の手にさし込まれる釘が造られるために鉄工所をこの地において下さいました。イエス様を裏切ったイスカリオテユダでさえ目的をもってある女の胎内で組み立ち、生まれさせました。それだけではありません。ポンテオピラトがエルサレムに転勤されるように政治の組織まで動かした方もイエスキリストでした。どんなに残酷な犯罪人だとしても生まれる前からこの世の中で一番残酷な死刑で死ぬと定められませんでした。そんなイエスキリストの十字架の贖いの死のたった一つの理由は私たちの罪を赦すため、それによって救うため、一言で言いますと神の愛のためでした。神様が創造されたすべての人類のためにそうなさったのです。神であるイエスキリストはいくらでも十字架の苦しみを避けることができました(ヨハネの福音書10:17-18)。

しかしイエス様はそうしませんでした。苦しみの杯の前で、なやんで死にそうでしたが、イエスキリストはその苦しみの杯を避けませんでした。そうできないからではなくご自身が十字架を避けませんでした。ヨハネの福音書3章16節にはこの世を造られた神様がご自分のひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためであると教えています。“神様がご自分のひとり子をお与えになったほどに”英語聖書では“For God so loved the world!”だと訳されています。これは神様がイエスキリストの十字架を通して私たちに見せてくださる最高と最善の愛の表現でした。もし今もみなさんの中で生きておられる神様が自分を本当に愛して下さっている証拠が見たい方がいますか。その方は主の十字架を見上げて下さい。主の十字架は神様がどれだけ私たち一人一人を愛して下さったのか、そして今もなお、将来も愛して下さるのかが一番よく分かる近道です。みなさんがよくご存知のローマ人への手紙5章8-9節を、そして8章35節から39節まで共に見て見ましょう。“しかし私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます。ですから、今すでにキリストの血によって義と認められた私たちが、彼によって神の怒りから救われるのは、なおさらのことです。”

愛するみなさん! どのぐらい赦せるのかによってどれほど愛しているのかが分かるでしょう。今もう一度イエスキリストの十字架の愛を受け入れましょう。そしてもう一度神様による最高の愛の証拠である十字架のイエスキリストを見上げましょう。その十字架から2000年経って今までながされている主のその愛はみなさんのためのものであります。人生をすすす時に、落胆する時がしばしばあります。その挫折や落胆があまりにもひどい時はまるで四方八方(しほうはっぽう)から苦しめられるような絶望を感じる時もあるでしょう。すべてが重荷(おもに)になり、絶望などを感じた時こそ、十字架につけられた主イエスを見上げる時です。本当に軟弱で小さなこんな私でさえも愛したため、全ての罪を赦し、救うために、すでに我々の代わりにすでに天地創造主である神の御子が十字架にかかって全ての血をながしてくださったその姿に目をとめましょう。その主の愛を頂く時こそ、私たちの心、人生が変わり始めます。

なぜイエスキリストはあれほど残酷な十字架を放棄しなかったのでしょうか。群衆たちがイエス様につばを吐(は)いた時にもイエスは相変わらずその人たちを最後まで愛いしました。裸にされても、打たれても、十字架の上で主は、最後にも“父よ。彼らをおゆるしてください(ルカの福音書23章34節)。”と祈ってくださったのも我々を愛したためでした。ローマ人への手紙8章35節から39節まで共に見て見ましょう。“私たちがキリストの愛から引き離すのはだれですか。患難ですか、苦しみですか、迫害ですか、飢えですか、裸ですか、危険ですか、剣ですか。しかし、私たちは、私たちが愛してくださった方によって、これらすべてのことの中にあ

っても、圧倒的な勝利者となるのです。私はこう確信しています。死も、いのちも、御使いも、権威ある者も、今あるものも、後に来るものも、力ある者も、高さも、深さも、そのほかのどんな被造物も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から、私たちを引き離すことはできません。”

イエスキリストの方からは神様と罪人である私たちと全く和解して下さる必要はありませんでした。救われるために、私たちこそ神様との関係が和解され、回復されなければならなかったのにイエスキリストが御代わりに十字架上ですべての罪の代価を払い、死んで下さったため私たちは神様と和解することが可能になったのはただ我々を哀れみ、愛して下さったその理由しか説明が出来ません。コロサイ人への手紙1章20節から21節まで何方が読んでください。“その十字架の血によって平和をつくり、御子によって万物を、ご自分と和解させて下さったからです。地にあるものも天にあるものも、ただ御子によって和解させて下さったのです。あなたがたも、かつては神を離れ、心において敵となって、悪い行ないの中にあつたのですが、今は神は、御子の肉のからだにおいて、しかもその死によって、あなたがたをご自分と和解させて下さいました。それはあなたがたを、聖く、傷なく、非難されるところのない者として御前に立たせて下さるためでした。”

愛するクリスチャンプレイズチャーチの家族のみなさん！神様が私たちのために十字架の上でなされたすべての御わざはおよそ2000年のことだけでなく、今も、未来の子孫たちにも有効なる神の御力であります。イエスキリストは今も我々を愛するがゆえに救いのためすべての罪の対価をご自身がすでに支配済みとさせ完了させてと主の十字架としてメッセージして下さっているのではないのでしょうか！

#### <4. 罪赦され救われ神の愛を受けた者の実践>

最後に第一ヨハネ4章7節—12節にイエスキリストの十字架の罪赦し、愛と救いを受けた者たちにこれからどう生きるべきなのか具体的に教えて下さっています。何方が読んで下さいますか。“愛する者たち。私たちは、互いに愛し合ひましょう。愛は神から出ているのです。愛のある者はみな神から生まれ、神を知っています。愛のない者に、神はわかりません。なぜなら神は愛だからです。神はそのひとり子を世に遣わし、その方によって私たちに、いのちを得させて下さいました。ここに、神の愛が私たちに示(しめ)されたのです。私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供(そな)え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。愛する者たち。神がこれほどまでに私たちを愛して下さったのなら、私たちもまた互いに愛し合うべきです。いまだかつて、だれも神を見た者はありません。もし私たちが互いに愛し合うなら、神は私たちのうちにおられ、神の愛が私たちのうちに全(まっ)とうされるのです。”

しかし、正直に我々の自力では自分が愛する人だけ、自分を愛してくれる人だけを愛するだけで、自分を愛せない人を愛するのは不可能な事かも知れません。どう見ても愛する事が私たちには出来ないのですが、今日もう一度私たちを愛し、死にわたされ、すべての罪を赦して下さった主の愛の力にたよれば、その愛の力によって赦せない人さえも赦し、愛せない人も愛せるように助け、力づけて下さいます。十字架の主は我々のすべてのことが和解させる力を持っておられるからです。今も主の十字架から流されてその愛を抱き、今も生きておられ、私たちと共におられる主が私たちに全てを抱く、全ての乗り越える愛の力を頂きましょう。ともに十字架の主を見上げ、主を以前よりもっと愛し、家族、兄弟姉妹をもっと愛していくみなさんとなりますようにお祈り申し上げます。十字架のイエスキリストは我々のすべての罪を赦し、我々を救える神からの最高の愛の力です。もう一度十字架の主を見上げ今も主の十字架から流される主の愛を抱き、主の愛を持って家族、兄弟姉妹、人々にさらに主の愛を分け与え、仕えて行くクリスチャンプレイズの全信仰の家族となりますように御名によって祝福し、お祈り申し上げます。アーメン！

<祈り> 天の父なる神様。私は神に愛され、創造主から造られた者です。しかし今まで、そのことを知らずにあなたから離れ、あなたを背いて、自分勝てに、自己中心に生きて来た事を認めます。しかし、今、神様が我を愛し、救うため御子イエスキリストを遣わして下さった事、そのイエスキリストが私の罪のために十字架にかかって下さった事を心から信じます。どうか私の全ての罪をお赦し下さい。あなたの十字架の贖いによって私のすべての罪が赦された事を信じます。今、イエスキリストを私の救い主として受け入れます。これからは主と共に罪から離れ、罪を憎み、罪に戦って打ち勝つ勝利の人生を過ごす事ができるよう助けてください。もし罪を犯してしまったら、主の御名によって告白し、開放される力が与えられている事信じ感謝します。どうかこれからは主の十字架の愛と罪赦しと救いの恵みを証する者として用いてください。この祈りをイエスキリストの御名によってお祈りします。アーメン！



愛するみなさん！ イエス様の十字架の一番近くにいた人たちが誰なのかご存知ですか。23-24節によると、ローマの兵士たちでした。一番主イエスキリストの救い、愛の十字架の近くにいた彼らでしたが、イエス様の古いその服さえくじを引いてもらおうとする目の前の小さな有益だけに目も心も捕らわれていたため、救い主を見上げることができませんでした。

ユダヤ人の祭司長たち、パリサイ人たちもいました(19章6節)。彼らはだれより、神様の御言葉を教えたり、よく知っていたリーダーたちでしたが、いつの間にか、彼らは御言葉からはずれてしまいました。謙遜にならずに自分たちがまるで神のように律法を作ったり、既得権を守るため自分たちのみがいつも正しいと高ぶりとなり、偽善者としてよくイエス様にしかられました。結局、彼らがイエスキリストを受け入れず、十字架につけると計略をめぐらしたかわいそうな者になってしまいました。

そして、主の十字架の前で多くの群衆たちもいました。彼らはイエスキリストが自分の必要さを与えてくださったたり、素晴らしい奇跡を起こったり、神であるしるしを見せてくださった時には、よく歓迎しながらイエス様に近づこうとしました。しかし、十字架の前でイエスキリストに対しては以前と極めて変わって感情、雰囲気、他の人々の話に動揺されてしまい結局、主を十字架につけると叫びながらイエス様をのろいました。なぜ群衆たちはこういうふになったのでしょうか。一言で言いますと、無知(むち)のためでした。みなさん！ 無知は謙遜ではありません。今日週の十字架の前に立っていた群衆たちを見ながら、神様を、イエスキリストの十字架の意味と主の御言葉を知ろうとしないと、むしろ神様の御心と正反対のことをやってしまう危険が多いということを忘れないで下さい“今日も主をもっと知る一日となりますように”が我々の祈りとなりますようにお祈り申し上げます。

19章25節から読んでみますと、もちろん後でよみがえられた主に集められますが、残酷な主の十字架前では恐ろしくて弟子たちさえもみんな逃げてしまいましたが、最後まで自分の命をかけて主を愛した人々が主の十字架の前で残っていました。弟子の中唯一ヨハネそして、ルカの福音書1章38節に、「主よ。どうぞあなたのおことばどおりにこの身になりますように。」と祈って生きて来た肉体の母マリヤと母の妹だった姉妹サロメ(マタイの福音書20章20節以下)、マグダラのマリヤ(ルカの福音書8章2-3節)、そして、クロパの妻のマリヤも聖書にどこにも記録が残されていませんが、主の十字架の前で最後までイエスキリストを信じ、愛し、とともにいた者でした。

愛するクリスチャンプレイズチャーチのみなさん！ みなさんは主の受難週間を迎えながら、今だれのようなすがたを持っているのでしょうか。主の十字架の前で祭司長とパリサイ人たちのようですか、群衆みたいですか。逃げた弟子たちですか。命をかけても最後まで主の十字架までともに立っていた弟子と女たちのようですか。